

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400080		
法人名	メデカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 市原国分寺台		
所在地	千葉県市原市国分寺台中央4-1-5		
自己評価作成日	平成24年1月25日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者様を主体に考え役割やしたい事を出来るだけ行うようにしています。入居者様の笑顔をより多く引き出せるように接するようにしています。</p> <p>・入居者様の出来る所は見守りをし出来ない部分の援助をしております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街に立地し、全館スプリンクラー設置、IH調理器、床暖房等安全面と住み心地に配慮した設計のホームである。職員は、日常の会話や仕草や様子の変化などから本人の思いやしたいことに気付く力を養い、一人の気付きをケース記録に落とし込み互いに共有し、ケアプランにも反映させている。各職員が「サービス計画実施状況のモニタリング」を行うとともに、その人らしい自立した生活が出来るようチームワーク良く支援し、法人の3つの運営理念実践に努めている。毎月のホーム内研修や外部研修・他事業所との交流研修などを通して職員一人ひとりの更なる知識とスキルアップを図ろうとする姿勢は評価に値する。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は申し送りや会議時に必ず唱和して職員全員共有しています。	毎日の申し送り時等に法人の3つの運営理念を唱和し職員全員で共有するようにしている。特に入居者一人ひとりの「その人らしさ」を大切にするため日常の会話や仕草や様子の変化などから本人の思いやしたいことに気付く力を養い、その人らしい自立した生活が出来るよう支援することに努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や幼稚園の行事への招待には継続して参加させて頂いています。今回は初めて自治会の市民体育祭に参加させて頂きました。	近くの幼稚園の運動会や生活発表会に毎年参加している。自治会の公園やゴミ集積場の清掃に参加したり、市民体育祭に初めて参加してお弁当と一緒に頂いて楽しんだ。ホームの夏祭りにポスティングして近隣の方に来ていただいたり、散歩時に顔見知りの方から「頑張って」と声がかかったり、犬を連れてきて触らせていただいたりと日常的な付き合いも出来ている。	保育園児を招いて交流したり、小中学校の職場体験の声掛けをしたり、近くの施設の利用者と交流したり、近隣の方に避難訓練の声掛けをする等更に近隣との繋がりを強くしていきたいとのことであり実現を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症に関することをお伝えさせて頂きました。地域の行事や特に自治会の掃除など入居者様にも参加をして頂き知ってもらおう。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子や行事などの活動報告を行っています。御家族様にも意見を頂き活動に反映させております。	市職員・民生委員・町会長・近隣施設・家族等の参加を得て、2ヶ月に一度定期的に開催している。運営活動報告・職員異動報告や防災訓練・食中毒感染症対策・認知症についてなど具体的なサービスに係ること等も議題とし、出席者からの地域社会資源の紹介や防災訓練への参加等の意見をサービスに活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の連絡、議事録の提出は2ヶ月に1回行った後に提出しております。疑問や質問がある場合は担当者の方に連絡をいれ確認しております。	市役所が近いので良く行き、担当者の方とお会いするようにしている。高齢者支援課の担当者も良く来訪され、体制加算や外泊中の転倒事故の処理等具体的な事例で気軽に相談し解決する等の関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修会を行い、理解し対応をしております。県の行う身体拘束研修も随時申し込みはしております。	県主催の虐待防止・身体拘束に関する研修にも出席し、出席者がホーム内で伝達研修をする等身体拘束に関する認識を高めるようにしている。威圧的な言葉や大声での声かけ、一人外出者に対する対応方法等身体拘束をしなくても済むケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を行い日々の防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長会議などで研修やユニットのリーダー研修を開催しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際に読みあわせを行い一つ一つの内容を確認していき疑問点があれば都度説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて御家族様から必ず意見を頂き活動やケアプランに反映させて頂いております。	面会時や運営推進会議後の家族会等で、意見要望を良くお聞きするようにしている。職員異動の掲示ボードや紙芝居のボランティアや外出行事の地域資源の活用等貴重な意見を頂き、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開催し職員からの意見を出してもらい内容を検討した上で活動に活かしています。また各委員会を設けスタッフが提案した外出や行事を行うようにしています。	法人に対する提案制度や職員アンケート等職員意見を言いあわせるシステムが整っている。ホーム内に職員主体の委員会を作り、行事計画・外出行事や業務の流れの変更等、職員からの自主的な提案を運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担がかからないように心掛けてはありますが欠員などが有リシフトの変更など厳しい労働となってしまう事もある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で研修の時間を設けスキルや知識の向上に努めています。他のホームに行きよい点を習得する研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月訪問の時間を設けて情報の交換や挨拶周りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される前にご本人、御家族に会い不安な事要望などを伺いアセスメントを行い入居者様に一番必要とされるものを作成しております。職員への周知もしています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時にも入居者様に対する御家族様の要望も必ず確認しそれに沿ってのプランを作成しています。入居後も面会時連絡時に普段のご様子など伝えさせて頂いております。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、御家族様の要望に沿ったプラン、ホームで生活する事を考え一番に必要とされるものをプランに反映させて頂いております。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>オープン当所からですがそれぞれの入居者様をご自分で出来る所は極力して頂き出来ない部分をお手伝いさせて頂く様にいます。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事や活動報告の予定を連絡させて頂き御家族様にも参加可能であればご協力して頂いております。来所時には入居者様の変化を伝え御家族様の力の大きさを伝えるようにしています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人の方や関係者の訪問を積極的に受け入れております。</p>	<p>近所に住んでいた人が訪ねてきたり、絵手紙のやり取りや年賀状書きを支援したり、馴染みの美容院やお墓参りに家族が連れてったり、個別外出で元の住まい周辺にお連れしたり、毎週来る同じ歯科助手の方と新しい馴染みの関係が出来たりと関係を継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お互いが話しやすい環境や配置を行い気の合うご入居者と近くになるようにしています。またその時にあわせ配慮させて頂いております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され他施設に入居された入居者様に面会をさせて頂いています。ご逝去となってしまう場合でも必ず通夜、葬儀に参列させて頂いております。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様の意向を伺った上でカンファレンスを行い入居者様主体のプランを作成しケアに努めております。	家族の面会時には必ずお話をきくように取り組んでいる。センター方式のシートを使用し、6か月毎に居室担当者がアセスメントを行っている。利用者をよく観察し、他の職員からも話を聴いてのアセスメントとなるので、本人の一番必要とすることが見え、それらをケアにつなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中からや御家族様、入居者様の大切な経験や出来事を知り職員で情報の共有をしケアに努める。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子がわかる様に記録に残し申し送り時に連絡するようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎週各入居者様の担当に行っていただきその状況を見つづご家族様の意見を伺いケアプランに反映できるようにしています。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、職員からどのようなケアがいいか意見を聞き、ケアマネジャーが総括してプランに反映させている。毎日、利用者それぞれの短期目標の実施に関して職員がコメントを記入している。日頃から家族の面会時には話を聞くようになっており、家族、本人、職員の意見やアイデアを反映した計画作成となっている。ケアプランに関する研修も行った。	本人、家族、ケアマネジャー、居室担当者での会議を検討されているので実施を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子に変化があったことや気づいた事会話の内容を記録に残すようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の状況に応じて通院や少人数による外出などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族様の紹介で教会の方が歌を披露して下さったり又職員のお子様をご利用されている団体の方が訪問してくださっております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の今までのかかりつけ医と往診医を選べるようにしております。通院は御家族様に協力をお願いしていますが緊急時や不可能な場合は職員が行う事もあります。	月に2度、往診医の訪問がある。かかりつけ医には家族が受診同行している。その他外来受診は整形、耳鼻科、精神科となり家族が対応し、内容を職員に伝達し、職員が記入して情報共有している。「往診、訪看記録」に受診記録を記入している。訪問歯科は週に一度の受診となる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間の体制で連絡が取れるようにしております。何かあった場合はすぐに対応できるように体制になっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に入居者様の情報を伝えていきます。入院時には面会に伺い看護師や医師に状態をうかがい今後の相談をしています。御家族様にも連絡をさせてもらっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、訪問看護、御家族様、職員に協力して頂き看取りも行っていきます。	入居時に、ターミナルケアが可能であることを伝えていく。ターミナル期には、医師から家族への説明もある。ターミナルケア導入中に改善したケースもある。ターミナルケアに関しては、往診医への連絡を周知徹底し、3時間ごとのバイタルチェックを行い、細かい対応を随時記録し共有した。ケアへの不安に対して具体的に研修を行い対応できた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルと連絡体制を構築し連絡が取れる体制をくんでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており避難訓練を行っております。日中、夜間想定で行っています。	年2回日中と夜間を想定し避難訓練を実施している。備蓄は5日分用意している。10分で5～6名の職員は駆けつけることが可能である。IHを使用しているが、防火自主点検を毎日行っている。	避難訓練のときには近隣の方が参加されるよう工夫されることを期待します。また、近隣在住の職員がすぐ来れるような夜間緊急連絡網の整備を期待します。夜間召集訓練や毛布での搬送訓練を職員全員が体験できるよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの方に合わせたこえかけや対応をしております。	職員の出勤と退勤時には、全職員が利用者それぞれに挨拶をしている。ホーム目標に「相手を思いやる言葉づかい」を掲げ日々の支援に取り組んでいる。トイレへのお誘いも周りに聞こえないよう配慮をしている。入浴拒否のある方にも言葉かけを工夫し支援に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に行事や外出、外食など意見をもらい反映もしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはある程度決まっていますが入居者様がその時にしたい事をして頂いています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などご自分できめられるようこえかけをしています。時には化粧もされて髪の毛も束ねる方などや訪問理美容にてパーマやカットをされております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご自分で召し上がることが出来る様に重さを工夫したりしています。食事の盛り付け下膳を入居者様にも行って頂いています。	食材を切る、混ぜる、盛り付ける、食器を洗う、食器を拭くといったことを利用者とともにやっている。献立は本部の栄養士が作成している。月に一度、外食や出前を楽しむ。夏祭りや敬老会などでのイベント食もある。おやつを手作りするときもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食個々に記録に残しており栄養吸収がなかなか取れない方には高カロリーの物をお出ししたり好物の物をお出しし対応しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし個々に行って頂いたり援助が必要な方は対応させて頂いています。夜間義歯はお預かりさせて頂いています。消毒、洗浄しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたものをその時の状況に応じて使い分けるようにしています。	家族と本人の希望によりおむつを使用している方も含めて、夜間おむつ使用者は2名。夜間おむつ使用の方も日中はトイレに誘導しているので、日中のおむつ使用者はゼロとなっている。日中、リハパンにパッド使用の方が、リハパンのみの使用に改善したケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に管理し運動や水分補給に努めています。状態によっては医師看護士に相談し対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の状況、状態に合わせて声かけ入浴をしていただいています。	入浴時間は午前も午後も可能。週に2回は入浴しており、多い方だと週に4回入浴されている。個人用のシャンプーや洗面器を使用している方もいる。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	都度その方の状態や状況に合わせて日中でも休息して頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服準備時にも焼く表を見ながら確認し内服介助時には日付け、後、名前、定数声に出し他職員に確認し又入居者様にも同様に読み上げています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々に出来る事をお願いし役割を持っていただいています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様にも協力をえながら外出をしたりホームでも散歩や外出など行けるように援助しております。	月に一度外出イベントがあり、お花見や袖ヶ浦公園、アピタ、ユニモなどに行く。10分～15分の散歩コースがあり、天気の良い日には週に2～3回、多いときは週に4～5回散歩している。個人の買い物には職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの委員会を設け予算を伝えその範囲内で活動をしています。入居者様個々に小口現金としてお預かりし必要な時に使用しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に御家族様に了解をえて電話や手紙をお出ししています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットにて季節の飾り付けをすることも有ります。玄関や外には花を置き明るく親しみやすい雰囲気心掛けています。	玄関にはデジタルフォトフレームがあり、入居者さんの姿が映しだされている。外にはベンチがあり、暖かい日にはテーブルをだしてお茶会をすることもある。リビングにはソファとテレビがあり、加湿器も使用している。ホワイトボード、カレンダー、写真、習字、掛け軸などがリビングの壁面を飾る。エレベーター内も写真が飾られている。午前中は太陽の光を取り入れるよう心がけ、朝食と昼食後は窓をあけて掃除をしている。	花壇やプランターの手入れと家庭菜園を検討しているとのことであり、実施を期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテレビがあり入居者様個々に移動し過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具などを持ち込んでいる方もいます。	居室ドアには名前と似顔絵が飾られている。電気、エアコン、クローゼット完備。持参された物としてはテレビ、冷蔵庫、ベッド、テーブル、イス、遺影、カーテン、タンス、鏡台などがある。お部屋をピンクで統一されている方もいる。ご夫婦で入居されている方は、一部屋を寝室として共有している。朝、窓をあけて換気をしている。安全を考慮してレイアウトの変更を行うこともある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室トイレなどには手すりが設置してあるので安心して生活できます。居室ドアに名前を表示したりわかりづらいトイレにも表示されています。		